

公立 | 静岡文化芸術大学

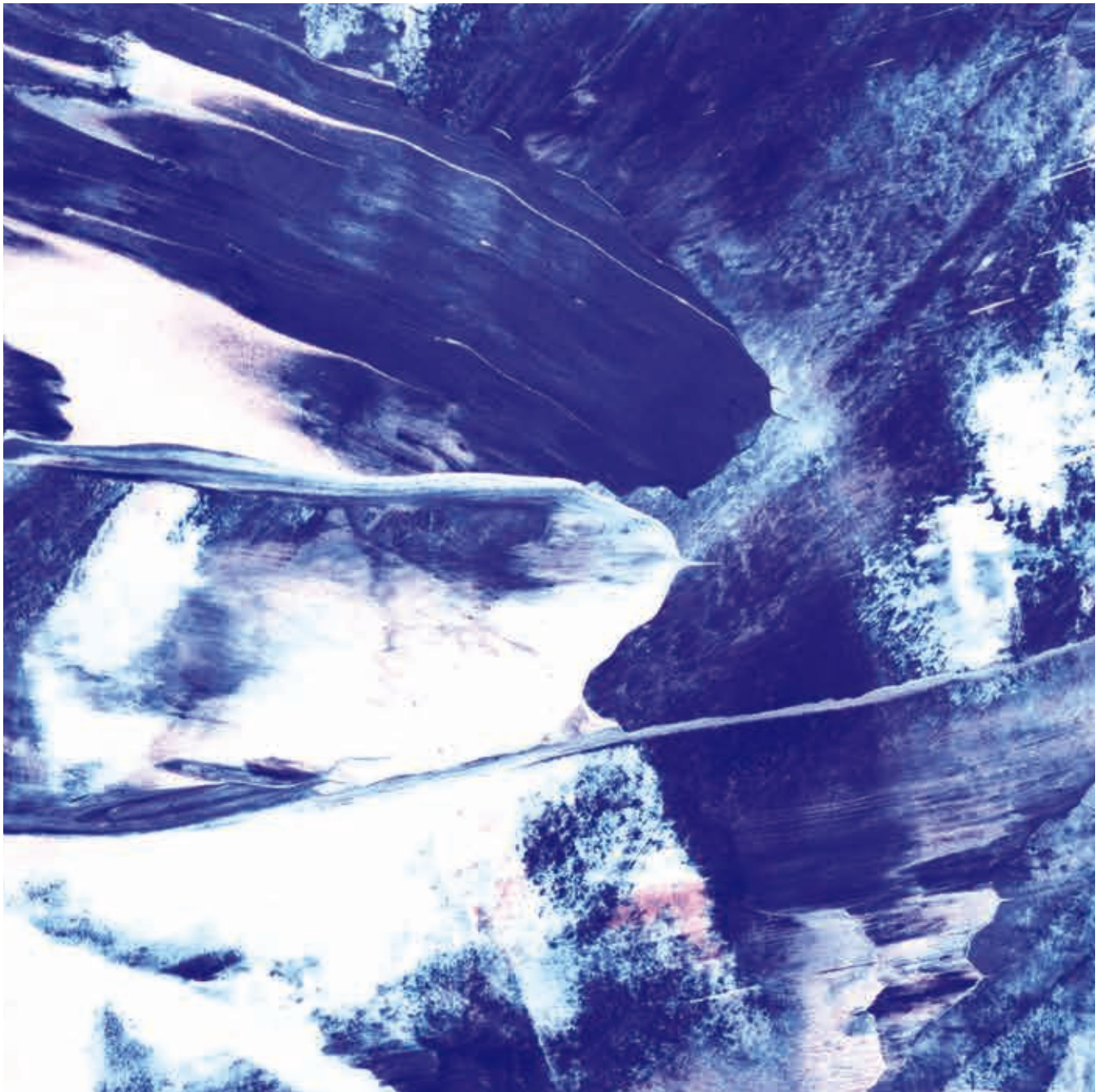
SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE

SUAC
2026

大学院案内

文化政策研究科 修士課程／文化政策専攻

デザイン研究科 修士課程／デザイン専攻





さらなる2年で拡がる
「文化」「デザイン」の未来像。

新時代を拓く 高度な専門家への道

平成 12/2000 年に開学した静岡文化芸術大学は、
さらなる飛躍と社会的使命を果たすため、平成 16 年に大学院を開設しました。
新たな時代を拓く思考力と高度な実践力を持つ人の育成、それが本学の大学院が目指す役割です。
近年、「プロフェSSIONAL」という言葉が輝いています。専門家をたたえるこのカタカナ語は、
その人の仕事の結果だけでなく、仕事ぶりへの感動もこめて語られます — そう、とくに
その姿が、相互依存を深める地球社会の構成員にふさわしい生き方をも示唆している時に。
すぐれた文化やデザインには、モノやコトをつなぎ、明るくアヤを織りなす社会をつくる力があります。
そのような力を、たゆまぬ研究心で伸ばしつづける人こそ、この大学院が鍛える「仕事人」です。
産業革命以来、人類が手にした多くの技術は強力ではありますが、まだ粗野なままです。
それらの力が交わる社会を、環境とともに輝かせるための文化とデザインが問われています。
本学専攻課程では、個性も経験もゆたかな教員たちが連携しつつ個人指導にあたります。
この冊子で、地域と世界をともに見つめ活躍する「仕事人」となる夢をふくらませてください。

静岡文化芸術大学 学長 横山 俊夫



文化政策専攻

| 修士課程（2年）定員10名 |

文化政策研究科

文化の力を形にし、社会に提供できる人材を

人間社会において、文化は人を動かし、束ねる大きなエネルギー源です。また、様々な示唆と知恵を人間に与えてくれる集合体でもあります。こうした文化の力を、人間の未来社会のために形にする営みが「文化政策」とも言えます。私たちは、文化・芸術創造や組織運営のあり方を探求し、「文化政策」をプロジェクトや政策として提案できるプロフェッショナルな人材を育成します。

◎アドミッション・ポリシー

文化政策研究科では、以下に掲げるいずれかの意欲、知識、能力をもった人材を国内外から広く受け入れます。

◎国内の学士課程卒業生

学士課程での多様な研究成果をふまえ、社会の様々な課題解決に向け、文化や芸術の視点を持って研究を行い、将来、高度専門職業人としてそれを実践していく意欲と専門知識、及び、多様な学問分野の国際的研究成果を応用することができる学習・研究能力。

◎国内の社会人

社会人としての実務経験を通して得られた問題意識にもとづき、社会の様々な課題解決に向け、文化や芸術の視点を持って研究を行う意欲、及び、明確な研究計画とそれを推進する管理能力、その成果を活かして実践していく能力。

◎諸外国の学士課程卒業生

諸外国の学士課程での多様な研究成果をふまえ、社会の様々な課題の解決に向け、文化や芸術及び国際比較の視点を持って研究し、将来、高度専門職業人としてそれを実践していく意欲、専門知識、日本語能力、及び、多様な学問分野の国際的研究成果を応用することができる学習・研究能力。

◎諸外国の社会人

諸外国における実務経験をふまえ、社会の様々な課題の解決を文化や芸術及び国際比較の視点を持って研究を行う意欲、専門知識、日本語能力、及び、多様な学問分野の国際的研究成果を応用することができる学習・研究能力。

現場からの学びを重視した実践的なカリキュラム

文化政策研究科では、専門的な文献研究だけでなく、実践の場でのフィールドワークや調査を重視し、文化・芸術の持つ可能性を可視化・具体化できる人材を育成していきます。院生は以下の3つの研究専門領域から1つを選び、領域横断的で学際的な研究を教員の指導のもと展開していきます。

※文化政策研究科は、2010年度から AAAE（Association of Arts Administration Educators）の正会員となっている大学院です。

Arts and Cultural Management	Regional Policy and Management	Glocal Studies
アーツアンドカルチュラル マネジメント	地域政策マネジメント	グローカルスタディーズ
楽団、劇団、美術館などの民間および公立の施設運営、行政の文化政策、文化産業、文化イベントなどのあり方や可能性に関する研究を行います。	まちづくりや地域活性化、コミュニティ政策、自治体改革、行政評価など、未来の地域に必要な活動や政策のあり方、可能性に関する研究を行います。	グローバル化の影響で、世界的規範や法、地域社会にどのような変化が生まれているのか、そして未来の持続可能な社会のあり方や可能性に関する研究を行います。

進路実績（抜粋）

- 公益財団法人掛川市生涯学習振興公社
- 公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）
- 公益財団法人豊田市文化振興財団
- 公益財団法人名古屋国際センター
- 公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）
- 公益財団法人浜松市文化振興財団
- 公立大学法人静岡文化芸術大学
- 学校法人八戸工業大学
- 特定非営利活動法人 国際舞台芸術交流センター（PARC）
- 特定非営利活動法人グッドネーバース・ジャパン
- 株式会社大阪市開発公社
- サントリーパブリシティサービス株式会社
- 株式会社四季
- 静岡鉄道株式会社
- 株式会社北國新聞社
- 静岡県庁
- 静岡市役所
- 浜松市役所
- 【進学】名古屋大学大学院博士課程
一橋大学大学院博士課程

修了生の声

現場と理論を結びつけ、国際協力の未来を切り拓く

NGO ジュマ・ネット（事務局長）、NPO 法人かものはしプロジェクト（スタッフ） **稲川 望** さん
文化政策研究科 2022年度修了

入学の動機 大学時代、私は国際協力に従事し、難民キャンプや紛争地を訪れ、バングラデシュで1年間NGO活動を経験しました。その中で社会構造や国際関係の重要性を痛感し、現場のみでは見落としてしまう視点を持つ必要があると感じました。恩師が修士課程で指導していたこともあり、その体系的な学びと理論を身につけるために迷わず本学の修士課程に進学しました。

現在の仕事への活かし方 私は南アジア地域で平和構築や人身売買などの社会課題に取り組んでいます。現場では語学力や適応力の他に、歴史や民族、国家の系譜など抽象的で体系的な理解が必要です。大学院での学びは、これらを理解するための重要な「地図」となりました。指導教員のもとで行った地域・歴史の詳細な調査や、副指導教員と共に人類学の理論書を読み込んだ経験は、現場での視点や見方を深め、まさに長い旅路を歩むための羅針盤となっています。



カリキュラムの特徴

01

基礎科目

修士論文の構想づくりを進めるための「文化政策研究の方法」と、修士論文の仮説をフィールドワークや現場での調査を通して複数の教員と共に考察していく「アクションリサーチ基礎」「リサーチワークショップ」があります。

02

基幹科目

各分野の概論的な知識を学び、学際的な系譜を学ぶための「領域横断科目」と、「アートアンドカルチュラルマネジメント」「地域政策マネジメント」「グローバルスタディーズ」に関係した専門的な内容を学ぶ「専門科目」があります。

03

演習科目

演習Ⅰ（1年目）と演習Ⅱ（2年目）から構成されています。演習Ⅰは異なる教員による2つを履修し、領域横断的に学びます。演習Ⅱはさらに1名の教員の本格的指導のもと、論文を完成させていきます。また研究科内での発表会の機会もあります。

03

修士論文

演習科目

- 演習Ⅰ
- 演習Ⅱ

02

基幹科目

- アートアンドカルチュラルマネジメント専門領域の科目
- 地域政策マネジメント専門領域の科目
- グローバルスタディーズ専門領域の科目

01

基礎科目

- 文化政策研究の方法
- アクションリサーチ基礎
- リサーチワークショップ

修士論文（例）

- バリの文化政策と舞踊家の語りにみる
レゴン舞踊様式の確立と継承
- 地方都市における洋楽受容と日露戦争
—鹿児島県を中心に—
- 地域志向型劇団の可能性と課題
—地域との関係性に注目して—
- 浜松地域における中小ピアノメーカーの軌跡
—アトラスピアノ製造を事例に—
- 呉市例大祭の動態的研究
—歴史的変遷と社会的役割の変化—
- バングラデシュのナショナル・アイデンティティ形成
- 中国人アートマネジメント人材のキャリア
—日本留学経験者に着目して—
- 芸術政策を巡る合意形成とローカルアーツエージェンシー
—ポートランド市の芸術税とパブリックアートプログラムに着目して—
- 静岡県浜松市の在日ブラジル人第2世代のメンタルヘルスをめぐって
- トランスナショナルなコンテンツを持つ可能性
—日本バラエティ番組に関する対立と調和—
- 社会的包摂とねむの木学園
—宮城まり子の活動に着目して—
- 公立図書館運営に求められるパートナーシップ
—中津川市の事例分析—

※修士論文は静岡文化芸術大学学術リポジトリをご参照ください。



文化政策研究科教員紹介

*は修士論文の研究指導教員 以下 50 音順

上山 典子 教授／文化政策研究科長*

専門：西洋音楽史／音楽文化論

専門は西洋の音楽史／音楽文化史。近年の関心は、ヨーロッパ市民社会における音楽祭の普及と発展。著書に『「新ドイツ派」の成立』(2022)、共著書に『音楽を通して世界を考える』(2020) ほか。日本音楽学会等に所属。

石坂 貴美 准教授*

専門：国際開発／地域研究（アジア）

JICA 青年海外協力隊、NGO 勤務、個人コンサルタント業などを経て、南アジアや東南アジアをフィールドに人々の暮らしを守るセーフティ・ネットについて研究。金融包摂、農村研究、女性グループ活動などにフォーカスを充てている。

内尾 太一 准教授*

専門：文化人類学／多文化共生論

東日本大震災のエスノグラフィで博士号（国際貢献）を取得。主著に『復興と尊厳』(2018)、訳書に M・ローゼン『尊厳』(2021) がある。災害や多文化共生をテーマに、困難に直面した人々と共にあるための研究の可能性を探求。

梅田 英春 教授*

専門：民族音楽学

インドネシア、特にバリ島の芸能、またインドネシアの文化政策と芸能の研究を行う。主な著書に『バリ島の影絵人形芝居ワヤン』(2020)、『バリ島ワヤン夢うつつ』(2009) など。日本音楽学会、東洋音楽学会、日本文化人類学会等に所属。

奥中 康人 教授*

専門：音楽学（近現代の日本の音楽史）

近代日本の音楽文化を調査・研究。おもな著作に『国家と音楽伊澤修二がめざした日本近代』(2008)、『幕末鼓笛隊土着化する西洋音楽』(2012)、『和洋折衷音楽史』(2014) など。日本音楽学会、東洋音楽学会に所属。

加藤 裕治 教授*

専門：文化社会学／メディア論

(株)文化科学研究所研究ディレクター、早稲田大学プロジェクト研究所(文化社会研究所) 招聘研究員を経て現職。研究領域は文化社会学、マスメディア研究、消費文化論等。現在、日本社会学会、関東社会学会、マス・コミュニケーション学会等に所属。

佐藤 良子 准教授

専門：舞台芸術政策論／地域文化振興論

音楽や舞台芸術分野の地域での活動や人材育成に係る政策・制度を中心に研究。著書に『公共ホールと劇場・音楽堂法』(2013、共著) 等。文化経済学会（日本）、日本文化政策学会、日本音楽芸術マネジメント学会等に所属。

塩見 佳也 准教授

専門：憲法学／行政法学

国家（法規制）と市場（営業の自由・契約の自由）の関係の法的構成という観点から、憲法・行政法理論を研究。公民連携まちづくりや公共施設の PFI など現代日本の具体的事例も研究している。日本公法学会、日本法哲学会等に所属。

鈴木 浩孝 教授

専門：応用ミクロ経済学／産業組織論

研究領域は産業組織論。特に寡占市場での企業間の競争や取引について、応用ミクロ経済学の観点から数理分析を行っている。スズキ株式会社勤務時は監査役室に所属。日本経済学会、日本応用経済学会、日本商業学会に所属。

曾根 秀一 教授*

専門：経営学／経営戦略論／企業史

企業や産業の存続をテーマに理論、実証に加え、国際比較研究を行っている。主著に『老舗企業の存続メカニズム』(2019) 等。学位は博士（経営学）。カナダ・メモリアル大学客員研究員、帝塚山大学講師等を経て現職。組織学会、日本経営学会等に所属。

高島 知佐子 教授*

専門：アートマネジメント／文化産業

欧米の文脈ではない日本の文化・芸術団体の経営として、伝統文化の組織や産業を研究する一方、病院でのアート活動にも取り組む。著書に『アートマネジメントの基礎』（美出版、2025）など。文化経済学会<日本>等に所属。

武田 淳 准教授*

専門：開発人類学／環境社会学

コスタリカをフィールドに開発（国際協力）による社会変容を研究。環境と開発、フェアトレードなどを切り口に M. フーコーの権力論を応用した理論研究を行う一方、国際協力の実践を行ってきた。博士（学術）。日本環境学会常任幹事。

武田 好 教授

専門：イタリア文化／イタリア語

研究領域はマキャベリ、およびイタリア文化。NHK ラジオイタリア語講師、テレビでイタリア語講座講師を担当した。著書に『マキャベリ 100 分 de 名著』(2012)、『これならわかる イタリア語文法』(2016) 等。日本イタリア学会、地中海学会会員。

田中 啓 教授*

専門：行政学／地方行財政／政策評価・行政評価

民間シンクタンクを経て 2004 年に本学に赴任。評価の理論・手法を研究する一方、中央省庁や自治体における評価の実践にも深く関わる。自治体の行財政改革審議会等を歴任。著書は『自治体評価の戦略』（東洋経済新報社）など。

谷川 真美 教授*

専門：現代美術／芸術学

(財) 京都服飾文化研究財団学芸員を経て現職。現代美術分野の美術評論、展覧企画運営等に携わる（現在に至る）。公立美術館、博物館等の運営協議会、外部評価委員会委員等を歴任。美学会、映像学会、日本マンガ学会会員。

田ノ口 誠悟 講師

専門：舞台芸術論／演劇・劇場史／劇場文化

フランスを中心に欧米諸国の演劇、舞台芸術を研究している。また、仏語戯曲の翻訳家、演劇上演のアドバイザー・ドラマトゥークとして劇場で仕事をしている。日本学術振興会特別研究員 PD を経て現職。

永井 聡子 教授*

専門：舞台芸術論、演劇・劇場史、劇場運営論

単著『新・舞台芸術史』現代図書 (2024)、『劇場の近代化』思文閣 (2014)、共著『A History of Japanese Theatre』Cambridge University Press (2016) 博士号取得。舞台芸術プロデューサー。芸術文化振興基金演劇・文化施設専門等外部評価委員。日本演劇学会、日本建築学会文化施設委員、劇場演出空間技術協会委員。

西田 かほる 教授*

専門：日本近世史（宗教史、女性史）

日本近世の宗教者やその組織に関する研究を行う。著作には『近世甲斐国社家組織の研究』(2019)。史学会、地方史研究協議会等に所属。

野島 那津子 准教授*

専門：医療社会学／福祉社会論／社会的排除

病者・障害者の語らないし生活を支える物質的基盤や、社会的排除のプロセスに内在する「合理的」排除の実践を研究。著書に『診断の社会学：「論争中の病」を患うということ』(2021)。日本社会学会、日本保健医療社会学会等に所属。

藤井 康幸 教授*

専門：都市・地域計画／まちづくり／創造都市

総合建設会社と民間シンクタンクを経て現職。米国認定都市プランナー（AICP）として米国をはじめとする海外にネットワーク。最近の関心は、個性的で魅力ある都市、持続可能な都市、都市・地域にかかる計画と政策の領域。

宮崎 千穂 准教授*

専門：歴史学／医学史／異文化交流史

主に 18・19 世紀の異文化交流史を、旅と病の関係、疾病のありよう、医学・薬学のあり方に着目して研究している。また、19 世紀・20 世紀の日本の知識人たちにとっての「シルクロード」の解明も目指している。

森山 一郎 特任教授*

専門：経営学／マーケティング論

大手小売業、消費財メーカーにて長く経営企画・販売企画等に携わる。組織の市場創造活動をテーマに理論的な研究のみならず、実践的な活動にも取り組む。自治体の大規模小売店舗出店や産業活性化等に関わる委員も務める。日本商業学会、日本流通学会、日本マーケティング学会等に所属。

横田 秀樹 教授*

専門：第二言語習得／心理言語学／言語学

第二言語習得、外国語の文法指導について研究。Acquisition of Wh-questions by Japanese Learners of English (2011) で Ph.D. (言語学) を取得。著書は『英語教育の素朴な疑問』(2014)、『言語習得研究の応用可能性』(2019) 等。日本第二言語習得学会会長。

四方田 雅史 教授*

専門：社会経済史／産業史

専攻は経済史・産業史・経営史で、特に日本とアジアの比較経済史から制度・文化と経済成長の関係を研究。学位は博士（経済学）。日本学術振興会特別研究員、早稲田大学政治経済学術院助教等を経て現職。社会経済史学会、経営史学会等に所属。

◎ 大学院を受験する際は、大学院学生募集要項により、指導教員と指導領域を確認した上で、指導を希望する教員に事前相談をしてください。
相談窓口：入試室 Tel.053-457-6401 nyushim@suac.ac.jp

*2025 年度に在籍している教員を掲載しています。



デザイン専攻 デザイン研究科

| 修士課程(2年) 定員10名 |

社会を見据え、新たなデザインを探求する。

いまデザインは、深く社会にかかわり、問題を美しく解決するための方法として大きく期待されています。人間や社会、地球環境に対する深い造詣とモノづくりへの情熱をベースに、企画立案能力から実務的設計能力まで、これからのデザインプロフェSSIONALに必要な専門知識と応用能力を高め、社会の要請に応える人材を養成していきます。

◎アドミッション・ポリシー

デザイン研究科では、以下のような意欲、知識、能力をもった人材を国内外から積極的に受け入れます。

- ◎専門分野における知識や造形力をさらに深めたい人
- ◎国際的・学際的な視点で、デザイン提案や理論の創出を求める人
- ◎研究・制作活動を行う専門知識と語学力を持ち、その成果を社会に向けて発信できる人
- ◎社会人としての実務経験を通して、明確な研究計画と研究成果を社会で実践していく構想を持つ人

研究分野

高度情報化、循環型社会への転換、そして高齢化の進展など、大きく変化する時代環境にあって、デザインに要請される内容は多様化し、デザイナーには専門的な能力が幅広く求められるようになっていきます。デザイン研究科では、そのような社会的要請に応えるために、皆さんがこれまでに身につけたデザインあるいはその他の分野の専門性をベースにして、より高度なデザインの力を磨くための実践的な研究の場を提供します。

製品デザイン
立体造形 プロダクトデザイン
鍛金 デザイン方法論
彫刻 パブリックデザイン 地域デザイン
金属造形 インダストリアルグラフィックス 社会・医療システムデザイン
クラフトデザイン ファインアート 産業デザイン振興 地域産業デザイン
デザインマネジメント 社会デザイン
パッケージデザイン 地域連携
ブランド戦略 産学官連携 エルゴデザイン
VI計画 感性マーケティング手法 生理人類学 デザイン論
商品イメージ戦略 人間工学

教育工学
e-ラーニング グラフィックデザイン
Webベースラーニング
キネマティクス ヒューマンインターフェイスデザイン
CGアニメーション Webデザイン インタラクションデザイン
デジタル映像表現 モーショングラフィックス
映像企画演出 スケッチング CAD デジタル造形
音楽情報科学
メディアアート 感性情報処理
HCI

インクルーシブデザイン
建築人間工学 ユニバーサルデザイン
建築構造計画
建築安全計画 構造デザイン
建築計画 建築デザイン
環境・設備デザイン 建築設計 建築実務
ランドスケープデザイン 空間デザイン 都市設計
都市デザイン 都市計画

進路実績（抜粋・50音順）

- 株式会社一条工務店
- 株式会社イリア
- 運城幼児師範高等専科学校（中国、教員）
- 柏木工株式会社
- カワサキモータース株式会社
- コイズミ照明株式会社
- 株式会社 GK テック
- ジェイアール東海建設株式会社
- 静岡県森町まちおこし協力隊
- 株式会社シャンソン化粧品
- 株式会社セガ
- ダイハツ工業株式会社
- チームラボ株式会社
- 中央コンサルタンツ株式会社
- 株式会社電通
- 株式会社乃村工藝社
- 株式会社博報堂プロダクツ
- 浜松市役所
- 林テンプ株式会社
- 株式会社日立建築設計
- 富士通株式会社
- ブラザー工業株式会社
- 株式会社ボックス
- 三井デザインテック株式会社
- 三菱地所レジデンス株式会社
- 三菱電機住環境システムズ株式会社
- 学校法人トキワ松学園 横浜美術大学（教員）
- 【進学】筑波大学大学院人間総合科学研究群
デザイン学学位プログラム（博士課程）

修了生の声

新たな視点で社会を彩る、実践の場で培ったデザインの力

株式会社 GK 設計 関西事務所 設計室 チーフデザイナー 近藤 洋輔 さん
デザイン研究科 2015 年度修了

入学の動機 私は学部時代に「デザインの美しさが現実社会とどう繋がっているか」を究明したいと考えました。浜松は、海と山があり都会すぎず田舎すぎない環境で、生活に根ざしたデザインを研究するには最適な場所です。また、東京と大阪のほぼ中間に位置しており、建築の見学やイベント参加にも便利な地理条件です。そのため、本学のデザイン研究科に進学を決めました。

現在の仕事への活かし方 大学院では、浜松の沿岸部に建設する防潮堤の環境デザインや、地元酒造メーカーの徳利やおちょこのプロダクトデザインなど、多様なプロジェクトを経験しました。これらの異なるスケールの対象をデザインする中で、「着眼点」が重要であることを学びました。変動する社会では常に新しい価値が求められています。現在のデザイン業務でも、この「ものごとをどう見て、どう見せるか」という発想は、私のデザイン哲学の基盤となっています。



カリキュラムの特徴

デザイン研究科のカリキュラムは3つの要素で構成されています。

01

特論科目

各デザイン分野に対応した少人数制の専門科目により構成されます。学生は、各特論科目の履修を通じ、高度な専門知識の習得を図ります。また、学際的な研究能力を高めるために分野を横断する科目履修を基本とします。

02

特論演習科目

特論演習やインターンシップ等により構成され、特論科目の学修内容を深化・発展させるとともに、実践的な能力を身につけます。特論演習は各特論科目に対応して開講され、学生は、各自の研究計画に沿って科目を選択して履修を進めます。

03

特別研究

指導教員の指導のもと、大学院在学期間を通して研究活動を推進し、その成果を修士論文または修了制作としてとりまとめ、2年次後期に提出します。

デザイン研究科において、所定の単位を修得すれば、一級建築士免許登録要件の実務経験2年として認められます。

03

修士論文 修了制作

02

特別研究

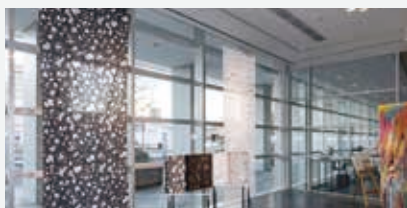
01

特論科目

- | | |
|----------------|-----------------|
| ● デザイン史 | ● インタラクショナルデザイン |
| ● ユニバーサルデザイン | ● メディアデザイン |
| ● エルゴデザイン | ● 映像デザイン |
| ● プロダクトデザイン | ● Web デザイン |
| ● パッケージデザイン | ● インテリアデザイン |
| ● 基礎造形 | ● ランドスケープデザイン |
| ● 造形デザイン | ● 建築デザイン |
| ● インダストリアルデザイン | ● 構造デザイン |
| ● インターフェイスデザイン | ● 環境設備デザイン |

修士論文・修了制作テーマ（2024年度実績）

- | | |
|--|---|
| ● 地域の人々を繋ぐサステナブルな
プロダクト・サービス・システムの研究 | ● FSC 認証天竜材を用いた薄型小幅直交集成板の開発と
社会実装に関する基礎的研究 |
| ● 触れたいくなるテキスタイル素材によるアートワーク
— 視覚的知覚と触覚的知覚を手がかりに — | ● 表象空間を含む設計手法の研究
— 空間の不可視領域を題材として — |
| ● アプローチ空間に関する研究
— 交通ターミナル周辺地域における空間計画 — | ● 高齢者の身体機能維持を楽しく支えるプロダクトデザイン研究
— 「二人でトレーニング」するサポート機器 — |
| ● 文字の構成要素を用いた、染色における新たな表現の探求
— ろうけつ染による雨の表現 — | ● 親子で遊びながらコミュニケーションが取れるゲーム |
| ● シアー素材による空間印象の変容についての実践研究
— 「透け感」のあるテキスタイルを用いて — | ● 地域固有の風土と空間構成に関する研究
— 防災機能をもった地域拠点づくりについて — |



※修士論文・修了制作要旨は静岡文化芸術大学学術リポジトリをご参照ください。

デザイン研究科教員紹介

中野 民雄 教授／デザイン研究科長

専門：建築環境・設備計画／環境デザイン／設備設計／サスティナブル建築／環境教育／BCP／LCP／BIM

建築環境・設備分野は、建築・デザインの世界では長い間日陰の存在でした。環境に良くてデザインが良くない建築は誰も購入しません。省エネになるといっても高価な建築は誰も購入しません。エコロジーとエコノミーを両立し、さらにデザインを融合させた「スマートデザイン」を一緒に考えて実践していきましょう。

岩崎 敏之 教授

専門：建築構造計画／構造デザイン／構造設計

アイデアを形にするために構造は不可欠です。構造についての探求とは、単に力学的な計算方法を学ぶということではありません。自然界の形、伝統的な建造物、多くの優れた実例から、力と形の関係を洞察できる能力を磨くことが重要です。院生の皆さんに、構造感覚を磨き上げる機会を提供します。

植田 道則 教授

専門：建築・インテリア設計／人間－環境系の内外空間デザイン

ある意味で、人と環境は、トランザクショナル（相互浸透）の関係にあると言われる。このことに着目し、日本の美意識が育んできた内外空間デザインを、人の五感を揺り所とするインタラクティブな発想を伴いながら、関係づけられることを探求しています。

小浜 朋子 教授

専門：ユニバーサルデザイン（高齢者・コミュニケーション・視覚情報・色彩・環境心理）／デザイン方法論

人の多様性を理解し、潜在的なニーズを可視化するプロセスを探索し、できる限り全ての人が使いやすいデザイン（UD）を創出します。観察や調査、プロトタイプの制作、検証、実験などを通して『気づきを価値化する提案力』を身につければ、社会に出てから様々な形で活かれます。そして何より、日常生活も楽しくなります！

亀井 暁子 教授

専門：建築計画／建築デザイン／建築設計／建築設計実務／教育空間／建築意匠論／地域のデザイン／サスティナブルデザイン

建築設計は、その場所や周辺環境が持つ様々な要素－文化や歴史、コミュニティといった目に見えない要素まで含めて－と向き合い、読み解き、様々なスケールを行き来しながらその場所にもふさわしいありかたを模索することの積み重ねです。協働を通して学び考え、環境を創る楽しさを皆さんと共有したいと思います。

かわ こうせい 教授

専門：絵本／イラストレーション

絵本は、ひとが人生の最初に出会う視覚メディアであり、その後の人間づくりに大きな影響を与えるため、人類の美と叡智の結晶が最高の形で注ぎ込まれています。総合芸術である絵本の研究制作を通して、イラストの表現力や伝える力を磨くとともに、普遍的価値や人類の知恵に触れることができるでしょう。

佐井 国夫 特任教授

専門：グラフィックデザイン

今日、私たちの社会生活の様々な領域で、グラフィックデザインによって視覚化された情報は数多く見られます。社会の視点から情報の意味を捉え直し、院生の皆さんと一緒に新たなビジュアルコミュニケーションデザインの可能性を探索してみましょう。

迫 秀樹 教授

専門：人間工学／生理人類学／エルゴデザインおよびその検証手法に関する研究

私の専門とする人間工学はユーザにとってより良いデザインを検討するための学問分野です。そして人間工学はデザイナーにとって自分のデザインに説得力を持たせるための技術であるとも言えます。その技術を磨くことにより、新たな観点を身につけることも出来ると考えています。

高山 靖子 教授

専門：プロダクトデザイン／デザインマネジメント（地域・福祉）／国際デザイン教育

人の心を動かすモノのデザインは、人々の暮らしを支え、文化を育み、事業を創り、社会の変化に多大な影響を及ぼします。人々の心を豊かな社会に向けて動かすデザインと、それを実現する仕組みについて、一緒に考えましょう。

羽田 隆志 教授

専門：プロダクトデザイン

プロダクトデザインはモノづくりではありません。人と人とのモノを介してのコミュニケーションです。人は表面的な外観より深い作り手の意図を感じ取るのです。道具では使い心地によって、乗りものでは乗り味によって伝わるのです。より深くより魅力あるメッセージを込めたデザインを目指しましょう。

服部 守悦 特任教授

専門：トランスポートेशनデザイン／プロダクトデザイン

移動機器と、それを取り巻く各種のプロダクトデザインやサービスデザインについて研究しています。100年に1度の変革期と言われる今、次世代モビリティの普遍性と革新性、それがもたらす新たなライフスタイルや体験価値、交通環境の未来について一緒に考えましょう。

花澤 信太郎 教授

専門：建築計画／都市デザイン／建築デザイン／建築設計／都市空間の分析と研究

日本には豊かな空間デザインの伝統があります。この蓄積をふまえながら、つぎの世代への価値ある提案を行うために、研究室では、見ること、考えること、手を動かすことのトレーニングを繰り返し行いたいと思います。

日比谷 憲彦 教授

専門：グラフィックデザイン

グラフィックデザインは平面に留まらない、というのが私の基本的な考えです。印刷物の制作はもとより、シンボルマークやカラーを空間に展開して施設や企業のイメージを構築したり、サイングラフィックによって人の意識や行動を制御することを研究テーマとして活動しています。

藤井 尚子 教授

専門：テキストイルデザイン・テキストイルアート／染織文化研究

大学院は、興味を深化させる場です。技術や思考の深化はもちろん、隣接する多領域を深く学び、異なる立場の人々と関わり献身できる、豊かな地力を深耕する時間です。あなたの目指すテキストイルが「素材」か「作品」かで、耕す道具も変わります。テキストイルの可能性と一緒に拓きましょう。

的場 ひろし 教授

専門：インタラクションデザイン／メディアアート

「インタラクションデザイン」と「メディアアート」は、異なる分野のように見えても深く関連しており、新しいタイプのクリエイター達が二つの分野を自由に行き来し、ユニークな成果を作り出しています。皆さんもこれからの分野の考え方や技術を身につけて、新しい成果を創出し、世界に発信していきましょう。

和田 和美 教授

専門：ウェブデザイン／メディアアート／映像企画演出／グラフィックデザイン

今、インターネット業界はハンパなく流通しています。つい先日ドイツでは、いきなり日本の 512 倍の通信速度に成功したって、何それ？ Flash はウェブから撤退させられそうな気配があるも、代替テクノロジーはまだまだ…。明日何がどうなるか、私もわからない今日この頃、さてあなたの立ち位置は？

小川 直茂 准教授

専門：グラフィックデザイン／情報デザイン／インフォグラフィック／基礎造形

リアル／バーチャル双方で様々な情報が氾濫する現代、コミュニケーションにおける情報の見やすさや分かりやすさの重要性が増しています。私は高度情報時代における情報表現と情報伝達のあり方について、視覚的な視点での研究・制作活動に取り組んでいます。

丹羽 哲矢 准教授

専門：建築計画／建築デザイン／建築設計／建築設計実務／建築意匠論／設計プロセス論／ランドスケープデザイン／地域のデザイン

建築は社会的存在であるため、社会や発注者の要望を理詰めで考えて解決し説明する必要がありますが、要望を満たせば建築ができあがるわけではありません。それらを超越し、理屈では説明できない直感的で情動的な魅力を内包した建築を提案し、多くの人々の協力を引き出せるような人材を育てたいと考えています。

百束 朋浩 准教授

専門：映像学／映像表現／映像制作／映像技術／視覚効果

映像は、理論と実践、芸術と科学といった領域を横断する学際研究が必要であると考えています。映像は総合芸術であり、映像を作るには科学技術とそれを使いこなす手法を学ぶ必要があります。新しい制作手法や技術は新しい表現の実現には必要な要素であると考えています。

松江 幸子 准教授

専門：プロダクトデザイン

技術革新や社会課題の多様化によってデザインの定義が変容を見せる中、価値を生み出すプロセスにも進化が必要です。人を主役に、物やサービスとの接点にある物語を深め、生活や社会をよりよく美しいものにするデザインを共に探究しましょう。

宮地 良治 准教授

専門：UX/UI デザイン／プロダクトデザイン

ライフスタイルの大きな変化による新たな生活の困り事や社会課題に対して、デザイナーにはその発想力を活かした解決を求められています。UX/UI デザインの観点で課題を解決し、新しいサービスの価値創出に取り組んでいきます。

◎ 大学院を受験する際は、大学院学生募集要項により、指導教員と指導領域を確認した上で、指導を希望する教員に事前相談をしてください。
相談窓口：入試室 Tel.053-457-6401 nyushim@suac.ac.jp

※2025年度に在籍している教員を掲載しています。

2026 年度 募集概要

詳しくは、大学院学生募集要項をご確認ください。

専攻及び募集定員

研究科	専攻	定員	修業年限
文化政策研究科	文化政策専攻	10人	2年※1
デザイン研究科	デザイン専攻	10人	

※1 本学では、修業年限を3年とする長期履修制度を設けています。職業を有している等の理由により、申請し、許可された場合に対象となります。
詳しくは、学生募集要項をご覧ください。

入試日程・試験会場

試験会場：静岡文化芸術大学（全日程共通）

日程	出願期間	試験日	合格発表	試験実施研究科	
				文化政策	デザイン
A日程	2025年8月21日（木）～8月29日（金）	2025年9月17日（水）	2025年9月24日（水）	○	○
B日程	2026年1月5日（月）～1月13日（火）	2026年2月7日（土）	2026年2月13日（金）	○	○

（注）複数回受験可。なお、日程は変更になる場合がありますので、公式 Web サイト等により確認してください。

初年度学費等

両研究科共通		県内者	県外者
	入学料	141,000円	366,600円
	授業料	535,800円※2	535,800円※2
	学生教育研究災害傷害等 保険料	2,430円	2,430円
	後援会費	20,000円	20,000円
	同窓費会	20,000円	20,000円
	初年度納入金計	719,230円	944,830円

（注）上記は2026年度予定です。変更になる場合がありますので、納入金額は入学手続き時に確認してください。

※2「専攻及び募集定員」の※1の長期履修制度を利用して修学する場合は、授業料が357,200円となります。

〈問い合わせ先〉 静岡文化芸術大学 入試室 **Tel.053-457-6401**



公立大学法人
静岡文化芸術大学

〒430-8533 静岡県浜松市中央区中央 2-1-1
TEL. 053-457-6401 FAX.053-457-6123
E-mail nyushim@suac.ac.jp

<https://www.suac.ac.jp/>



◎JR浜松駅より徒歩15分 ◎遠州鉄道「遠州病院駅」下車、徒歩8分
◎遠鉄バス「文化芸術大学」下車